

セブンスデー・アドベンチスト教団

アドベンチスト

July

「ある日の出来事」

東京中央教会長老 金子 盾三

今年の5月3日、朝から頭が重かった。家内と約束していた青梅御岳^{みたけ}へのハイキングは止めようと思った。しかし、自然の中で癒されるかも知れないという思いが勝った。御岳の山頂近くで景色を眺め、緑の山道を歩いているうちに、体調は良くなった。

御獄神社からロックガーデンに向かうコースを歩いてみようということになり、山道を下り始めた。行けども行けども下りで、何かに引きつけられるかのように山を下りていった。

七代の滝に着いた時、滝の上の切り立った岸壁から、女性が大声で何かを叫んでいた。何事かと思い、その方の近くまで上って、下を見ると、何と中年の男性が10メートルほど下の溪流に前のめりになって倒れているのが見えた。下半身は流れにつかり、頭部は岩の間に挟まれているように見えた。身動き一つしない。御主人が道に迷って、転落したという。二人の若い女性ハイカーが、奥様に付き添っていた。たまたま非番で通りかかったという消防署員が、携帯電話で消防署と連絡をとっていた。「CPA(心肺停止)ですね」と彼は、医師と知った私に言った。

その後少しずつ救助の方たちが現場に集まってきた。しかし、遭難者にはなかなか近づけな

い地形であった。発煙筒がたかれ、上空には消防庁のヘリコプターが飛来したが、間もなく飛び去って行った。レスキュー隊員が遭難者を滝の前面からロープで吊り降ろしたのは、それから1時間以上経ってからであった。

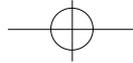


嬉しいことに、遭難者は生きていた。頭部から出血しており、意識は無かったが、呼吸もしっかりしていて、心拍も正常であった。思わず、奥様に「よかったですね」と言葉をかけた。再びヘリコプターが飛来して、下流のやや開けた場所から遭難者を引き上げ、救急病院へ搬送して行った。

数日後、奥様からその後の経過を知らせる手紙をいただいた。一命はとりとめたとのことであった。医師として当り前のことであるが、救助されるまでの間、ハイキングを中断して、私が現場にとどまっていたことをとても感謝された。

この出来事の本当の意味を私は知らない。けれども、あの時、神は確かにすべてを導いておられたと思う。





「子ども達に ビタミンUを！」

橋本 笙子

4月から毎月、第2土曜日は野外礼拝を行っています。子ども達と一緒に神様の創造された自然の中で讚美し、お話を聞きます。そして、みんなで遊ぶのです。

ある時、子どもからこんな質問を受けました。「安息日に遊んでいいの？」私は、びっくりしました。そこで、大人の方々にも「安息日に遊んでもいいと思いますか？」と聞いてみたのです。そのとき、いらした方はみなさん「わからない」という答えでした。どこかで、遊び=楽しい=安息日にしてはいけないこと、という図式ができています。安息日をどのように過ごすかと考える前に、私たち(特に子ども達)にとって、「遊び」とは何なのか考えてみましょう。

子ども達の成長には、タンパク質やビタミンなどの栄養素が大切なように、ビタミンIやビタミンUが必要です。ビタミンI(アイ)は「愛」のことです。しっかりと愛されることによって心身ともに健康に育つことができます。では、ビタミンU(ユー)は？

これはU=遊です。遊ぶことです。遊びを通して、心も体も成長していくのです。

ビタミンUには色々な効用があります。知力や知的好奇心を育てること、ルールを守ることを知ること、体力もつきます、そして遊びを通して自己表現を覚え、人間関係を築いていくことを知るのです。

また、仕事が「結果重視」なのに対して、遊びは「過程重視」です。勉強や仕事は、時にはいやなこともありますから、遊びとは違います。しかし、遊びの要素もあります。勉強して新しいことを知ったり作り上げたりすることは、成績やテストとは関係なく、それ自体が楽しいことです。言葉を変えるなら、成績など結果を求めて動くのは「外発的動機づけ」、それ自体の喜びのために動くのは「内発的動機づけ」ということができます。内発的に動機づけられた行動は、質が高く、持続性があります。テストのための勉強は、テストが終わった途端に忘れてしまいがちですが、好きで学んだことはいつまでも忘

れません。聖書の勉強でも内発的動機づけを持つことが、子ども達にとっても必要なことなのです。

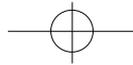
小さなころから教会で聖書の学びができることは素晴らしいことです。しかし、小さなころのいたずらを止めさせ、知的好奇心に満ちた活動を止めさせて、子ども達のやる気の芽をつみとっておきながら「大きくなってから教会に来なくなった」と言うのは無理があるでしょう。もちろん、聖書の勉強は大切です。教会の中で静かにさせることも必要です。でも「鬼ごっこ」や「かくれんぼ」も、どれだけ子ども達の知力や体力を成長させるかを忘れないでほしいと思います。また、私たちが社会で生きていくためには、知識も技術も必要ですが、良い人間関係を持つことがとても大切です。聖書の話だけでなく、遊びの中の実体験を通して学ぶことこそが重要なのです。

教会の中でストレスがたまり、落ち着かない子ども達があります。そんな子どもを救うのは、遊びの場ではないでしょうか？ もちろん、親からの愛情が基本ですし、楽しい教会生活は大切です。でも、そこに問題があるときに、遊びの場が重要な役割を果たすのです。友達がいて、自由があり、心の底から楽しめる。そんな豊かな遊びは、子ども達の心身を健康に育て、健全な人間関係を作り、子ども達の幸福へとつながるでしょう。遊びの中で人間として健やかに育ち、どのように人に接し、どのように人に仕えるかを学んでいくのです。

神様のみ言葉は、子ども達の心にまかれた種です。その種に「遊び」という栄養(ビタミンU)を与えることによって、根が伸び、心にしっかりと根付き、たくさんの実が実るための準備となるのです。

子ども達の健全な成長のためには、ビタミンI(愛)と同じようにビタミンU(遊)は不可欠です。私たちの教会では、どんなビタミンUを子ども達に提供できるでしょうか？ これこそ、私たちの与えられた大きな課題なのです。





原宿彩彩

井上澄さんから誕生日のお便り

6月の第3安息日、安息日学校では5月・6月の誕生月をお祝い、当該の方々のうち、岩沢靖子さん、前中エルサ・メリーさん、板東洋三郎先生に、「思い出写真」をバックに証をしていただきました。95回目の誕生日をお迎えになった井上澄さんもお招きしたところ、このようなお便りが届きました。



緑の美しい季節になりました。

度々御鄭重な御手紙有難うございました。今年の春より体調が良くなり此度の御申し越しの御心に叛いて、出席致し兼ねます。誠に申し訳ございません。私は良、間我が儘で身勝手な生き方をして参りました。八十歳近くになって教会に通う様になり、鴨田 千先可姉様に聖書を学びました。毎週木曜日、聖書の成立を分り易く丁寧に教えて頂きまして、過去の生き方に深く反省し、イエス様の「愛、寛容、感謝」その他の御言葉を身につける様心掛けて居ります。八十九歳の暮に動脈瘤の手術を受けました。術後五・六日経った時、私の病棟の看護士さんが私を車椅子にのせて浴室へ行き、身体を拭いて下さいまして更に足を洗って下さいました。その時は、イエス様か弟子達の足をお洗ひになって人は皆平等であると訓えになった事を思い、主の御言葉を實際体感致しました。この事を常に思い出して生半く忘れる事のない訓えとして居ります。「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。私かきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」 (マルコ2:17)

お孫様の様な者にも共に居て下さる事に感謝して居ります。

「初めの愛に戻ること」

人とは不思議なものである。他人のことなら吹き出してしまうほど滑稽であることが、自分のこととなると全く見えず、執着したり、意固地になったり。第2回家庭セミナー「夫婦の危機 離婚の現場から」が、二瓶和俊弁護士を講師に迎え、6月29日安息日の午後開催されました。参加者は計71名。現代社会に多い熟年離婚、そして若年離婚のふたつに焦点を当て、現実味たっぷり、そして時にはユーモアも交えながらのお話に、夫婦について考える深いひとときとなりました。質問コーナーでは、「クリスチャンだから、我慢しなければいけないのか」といった現実的な問いも出ましたが、「それとこれとは違います」ときっぱり。ただ多くの離婚問題を手がけてきた二瓶弁護士の最後の言葉は、「初めの愛に戻ってください」。家庭会のセミ、聞き逃しては惜しいですよ！

俳句

緑陰の芝生に憩う白き傘
 去年よりも数増しにけり七変化
 梅雨寒をうれいセーター出しておき(夏)
 紫陽花の雫とともに友逝けり
 片蔭をひろいひろいて通院す
 (茂子)

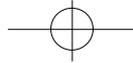
「七変化」はあごの病のことです。

＋ 第3回家庭セミナーのご案内 ＋

日本は、他の欧米諸国以上のスピードで、高齢社会に向かっていきます。はたして、福祉制度の充実だけで対応できるのでしょうか。老後の準備は若い時からと言われていますが、今、日本人に与えられているこの最大の課題を、一緒に考えてみませんか。

- *テーマ：「高齢化社会の光と影」－ 誰もが避けては通れない道 －
- *お 話：臨床心理士・特別養護老人ホーム「シャロ - ム東久留米」施設長 上田 健先生
- *日 時：7月27日(土) 午後2時より約1時間
- *場 所：1F 集会室





バイブル豆事典

「私たちのサポーター、天使」

世界を、そして日本を沸かせたワールドカップも大成功裏に終わりました。各選手の活躍もさることながら、サポーターの存在はゲームの結果に大きな影響力をもっています。私たちも日々信仰の戦いがあります。しかし、私たちにも強力なサポーターがいます。それは神の天使たちです。

聖書で最初に天使が現れたのは、砂漠にさまよっていたハガルを励ますためでした(創世紀16:7~12)。また、迫り来る滅亡の危険を口に警告したのも天使でした(創世紀19:1)。長い人生を振り返って、すべての災いから自分を救ってくれたのは、紛れもなく天使であったとヤコブは言っています(創世紀48:16)。アブラハムやモーセ、そしてイスラエルを導かれたのは、聖書でしばしば「天の使い」あるいは「主の使い」といわれたキリストご自身でした(創世紀22:11、出エジプト3:2、14:19、23:23)。ダニエルがライオンの穴に投げ込まれた時、彼を守ったのは天使でした(ダニエル6:22)。天使はまた、預言者に神のみ言葉を取り次ぐ働きもしています(ゼカリヤ1:9、黙示録1:1)。興味深いことに、キリストの地上のご生涯はその誕生から復活に至るまで、常に天使によって仕えられていました(マタイ1:20、2:13,19、4:11、28:2,5~7)。その天使についてキリストが繰り返し教えられたのも当然でした(マタイ13:41、18:10、22:30、24:31)。神の天使についてと同時に、キリストは悪魔の天使についても教えておられます(マタイ25:41)。キリストの昇天後、初代教会を導いた聖霊の手足となって使徒や信者を支え、伝道を進展させてくれたのも天使たちでした(使徒行伝5:19、8:26、10:1~7、12:7~11)。キリスト教会の初めから終わりまで、そのすべての過程を述べている黙示録で、天使という言葉が80回以上も使われていることは、すべての時代のクリスチャンに必要な助けを神が与えていくご保証であると考えることが出来ます(詩篇34:7)。

(東京中央教会牧師 板東洋三郎)

7月のスケジュール

- 7/6(土) [説] 金城健祐牧師 & 子供のお話
役員会
長老会
- /13(土) [説] ジェイロング・リー牧師
子供野外礼拝(代々木公園)
暗唱聖章大会
週報 & アドベンチストはらじゅく発送
小羊クラブ
- /20(土) [説] 板東洋三郎牧師 & 子供のお話
讃美と証の会
理事会
- /22(月) ~ 24(水) VBS 夏期聖書学校
- /27(土) [説] 渡部正廣長老 & 子供のお話
- /28(日) PFC キャンプ準備

エデン ED園だより

誰よりも先に素敵な原稿が見られる!...編集屋の特権に毎号与り感謝です。その上、6月号ではこんな経験も。たまたま外出した昼どき、電車内で念のため校正紙を再見、沖縄の「ゴ-ヤ-便り」を下車前にさらにもう一度嬉しく拝読して「OK、誤植なし!」 気をよくしたままそば屋さんに入ったら、何とテレビからしきりに「ゴ-ヤ-が...夏バテにゴ-ヤ-が...」という、みのもんだ氏の声がある。偶然にもゴ-ヤ-特集を放映中だったので。笑みこらえつつ、ざる一枚、殊更に美味しくいただきました。(YY)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司
[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517
* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫

